

令和2年度 草の根・人間の安全保障無償資金協力

「イジェヴァン市廃棄物管理能力向上のためのゴミ箱・収集車整備計画」

供与式の実施

令和3年9月23日、草の根・人間の安全保障無償資金協力「イジェヴァン市廃棄物管理能力向上のためのゴミ箱・収集車整備計画」（贈与限度額：76,960米ドル（8,465,600円））の供与式が、タヴシュ州イジェヴァン市において行われました。本式典には、福島正則駐アルメニア日本国大使、ガルミャン・タヴシュ州知事、チャガリヤン・イジェヴァン市長代行、被供与団体であるアルメニア赤十字社のイエギアザリヤン事務局長等が出席し、その他行政職員や被供与団体職員等計約20名が参加しました。

本計画は、イジェヴァン市にゴミ収集車両1台及びゴミ箱240基を整備し、同市の廃棄物処理・管理能力の向上に寄与することを目的としています。これにより、イジェヴァン市の住民19,000人以上が直接的に裨益することに加え、住民の環境意識の向上を目的とした環境保全に関する啓蒙活動を通じて、中・長期的にはゴミの適切な廃棄や処理が促進されます。その結果、同市街地を流れるアグスティヴ川の水質が改善しアルメニア国内の環境保全が強化されるとともに、アルメニア政府の優先課題及び日本政府の対アルメニア開発協力方針に合致する形でアルメニアの環境安全保障にも寄与することが期待されます。

式典の冒頭、被供与団体よりイエギアザリヤン・アルメニア赤十字社事務局長が歓迎の辞を述べ、今回の日本の支援を通じて、イジェヴァン市の廃棄物管理体制が強化されるだけでなく、環境保全や防災対策にも資するとして、日本政府及び在アルメニア日本大使館に対し感謝の言葉が伝えられました。

福島大使は、地域開発における行政インフラ整備の重要性を強調した上で、本計画が草の根レベルから持続可能な成長の実現に貢献する、日本政府の取組の好事例であると述べました。また、本計画が日・アルメニア関係の根幹を成す、友好と相互理解を象徴する支援となったと付言しました。

チャガリヤン・イジェヴァン市長代行は、地域社会が喫緊で必要としていた課題に対応した本計画を賞賛し、支援を実施した日本政府と被供与団体に謝意を述べました。



福島大使の挨拶



チャガリヤン・イジェヴァン市長代行のスピーチ
(左から2番目)



供与したゴミ収集車及びゴミ箱



記念撮影
(左からチャガリヤン市長代行、福島大使、イエ
ギアザリヤン事務局長、ガルミヤン知事)